

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2017年4月22日～2017年4月28日の推移】

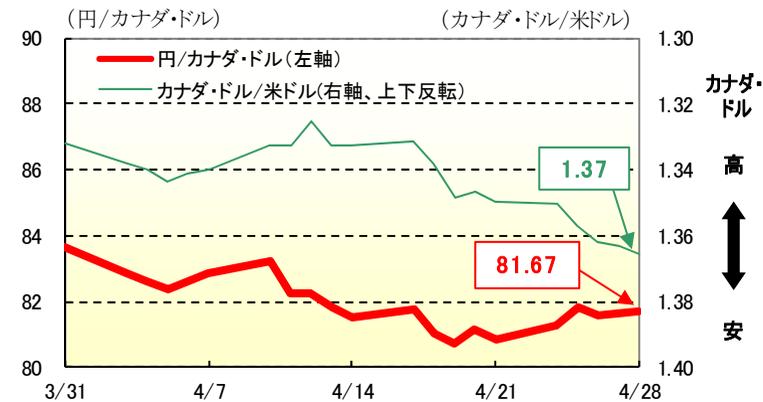
【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円相場は上昇する一方で、カナダ5年国債利回りはおおむね横ばいとなりました。

フランス大統領選挙の先行き不透明感が後退したことや、北朝鮮の朝鮮人民軍創建記念日を無風で通過し、北朝鮮情勢への懸念がやや和らいだことで、金利は上昇し、カナダ・ドル円相場も上昇しました。

一方で、米国政府がカナダから輸入する材木への関税案を表明したことに加え、カナダのGDP(国内総生産)や小売売上高が市場予想を下回る軟調な結果となったことは、金利の上昇およびカナダ・ドル円相場の上昇を抑える要因となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年3月31日～2017年4月28日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

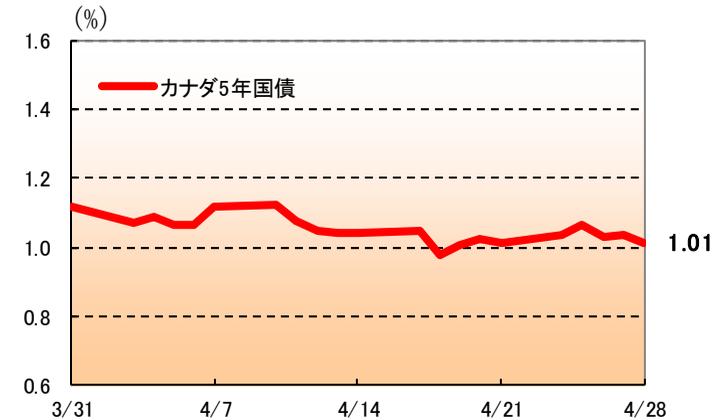
【2】今週の見通し

今週は、米国のFOMC(米国連邦公開市場委員会)や雇用統計、FRB(米国連邦準備制度理事会)高官の講演など、米国の材料に左右されやすい展開を見込みます。FOMCでは政策金利の据え置きが見込まれていますが、今後の利上げに積極的な姿勢がみられれば、金利上昇の材料になると考えられます。また、日曜にはフランス大統領選挙の決選投票が予定されています。事前予想通り、マクロン氏勝利となれば市場のリスク選好度が高まることも予想されます。引き続き、北朝鮮情勢も市場を動かす要因になりそうです。

カナダ国内については、経済環境の好転などを背景に当面は政策金利を据え置きつつも、次の政策金利の変更は利上げ方向とみています。世界的にも金融政策は緩和から正常化へ向かう流れとなっており、足元の市場の不透明感が後退すれば、カナダの金利上昇圧力が優勢になるとみています。今週は雇用者数や貿易収支が発表予定です。

足元の原油価格はやや調整しているものの、産油国による生産調整の動きを背景に、当面は底堅く推移すると見込んでおり、カナダ・ドルの下支えになるとみられます。

【カナダ 金利推移】 (2017年3月31日～2017年4月28日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>